



TITLE:

雑報

AUTHOR(S):

---

CITATION:

雑報. 地球 1933, 19(3): 239-244

ISSUE DATE:

1933-03-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/184142>

RIGHT:

於ける發達、本邦主要原料資源、需給狀態、經營狀態、將來等を述ぶ。委しい統計表も澤山あるが、それよりもグラフや分布圖の面白さに我々は眼を奪はれる。(尾山生)

## ○鑛物學入門

吉村豐文 望月勝海共著 東京市神田區  
駿河臺西紅梅町一一 古今書院發行  
昭和七年十二月 定價壹圓五拾錢

地學に關する書籍の續々出版されることは斯學普及の爲め慶びに堪えぬ。本書は高等學校に於ける教授案を本として書かれたとのこと、其書名の示す通り高等學校、專門學校生徒の參考書として、又鑛物の研究に志さず者の好同伴である。多年高等學校に教鞭をとられた經驗を以て、記述するところ極めて懇切に、理解を易からしめるを主眼とされてゐる。然かも極近鑛物學進步の跡を忘れず著者の苦心も推察される。周到綿密なる校正の跡も歴然として一二の微細なる誤植があるに止まる。第一篇より第八篇に至る緒論、鑛物の形態、形成の内部構造、鑛物の物理的性質、物理化學的性質、化學的性質、成因及び產狀並びに各論を記載され、鑛物學全般に亘つてゐる。第一篇より七篇に至る插畫二一圖、第八篇鑛物各論に於ても一六五の結晶圖を載せ、總頁數一八九頁に及んでゐるが、定價の低廉なるは一驚に値する。江湖の同學の士の一讀を薦める。(K)

## ○村の人文地理

佐々木彦一郎著 古今書院發行  
定價一圓二十錢

四六版一七六頁の小冊子であるが日本の村といふものについていろ／＼の觀察をのべられた目新しい好著述である、村の成立、村の成長、村の變遷、村の家、村の生息、村の調査項目、村の吟味、村の境、村の環境と條件といふ風に、村の人文地理現象を巧妙な筆致によつて解説されてゐる。予は郷土研究の熱心な人々にこの好著を推薦したい。(藤田)

## 雜 報

### ○暹羅產唐木の各種

一、紫檀、シヤム名 Mai Payung 其密林中にあるものは樹幹長く延びて高く、粗林中にあるものは低く分枝して本幹短く、樹幹直徑五〇糎のものにして長四米乃至一〇米突の材を出し、柱材、椅子、卓子、其他の裝飾家具類、牛車々輪、斧又は山刀の柄、天秤棒、珠盤等その用途ひろし。

二、黑檀、シヤム名 Mai Makena 樹幹直長にして枝や、少く紫檀に比して大木となるも、甘皮頗る厚くして之を剥ぐときは用材とならざることさへあり、幹の長四乃至八米となる、欄、箱、椅子、卓子の縁、小刀の柄其他多くの指物小細工に用ふ。其果實は黑色染料として極めて堅牢にして重用せられ毎年支那より絹布を輸入し黒染の上再輸出せらるゝ量亦大なり、但し此果實は腐敗しやすく、果實として輸出不可能なる結果である。

三、縞紫檀、シヤム名 Mai Chin Chau といふ紫檀より大木多く長さ四米乃至十四米もある、其用途は紫檀と同様なれども牛車製造に供せらるもの多し。

四、鐵刀木タガヤサン、シヤム名 Ken Knelek といひ大さは縞紫檀に及ばず、長さ三米乃至十米見當なり、建築上大なる鐵釘の代用となり、造船に必要かくべからざる木であつてシヤムでは造船に全く鐵釘を用ひず、すべてこの木を用ひるので、この名がある。

五、花欄、シヤム名 Mai Prado 紫檀と同じく密林中にては十五、六米にのびる、粗林中では四、五米にしかのびない。直徑五十糎乃至一米になる、クワリンは全く輪出向で國內では使用されず、稀に牛車、又は小川の一枚橋に用ひられる、農具の鋤臺に適する。

六、牛角木、シヤム名 Mai Kapi Kaw Kwai 其の立木の狀態は鐵刀木に似てゐる、前者は鐵錆色をなし、後者は紫黃色である、何れも柱材として美麗である、本邦にては未だ多く知られざるものゝ如し。

以上の堅木の外に獅唐木といふべきものがある。

七、沈香、シヤム名 Mai Hom Krishna 産額少く、香料。

八、白檀、シヤム名 Mai Chang Hom 線香製造に供す。

この二種は生木を伐採するのではなく、數年乃至數十年立枯となつた木を發見して採集したものである。

九、蘇木、シヤム名 Mai Fang 一種の灌木で直徑三、四イ

ンチ、長さ二米内外、其用途は染料及藥材である、シヤムでは食品の色づけに用ひる、染料として蘇方といひ、シヤムにては酸化鐵を混じて黒染料とする。

一〇、カヤレー、大さ蘇木と同じく黃色染料である。インドに輸出される。

一一、黃楊柴(ツゲ)、シヤム名 Mai Poot 三十年來日本人の手によつて日本へ輸出される、シヤム國內では用途廣からず葺物細工に用ひる。

唐木は何れも特定區域に偏在密生して特殊林を形成せるものではない、常に雜木林中に點々散在し其分布は頗る廣い地域にわたるから、立木數の調査などは出来ない、又之を伐採しても搬出に非常な不便がある、其産地は大凡左の如し。

一、紫檀類、ナコンラーチャシマー州内ドンピヤワイ山脈及東佛領インド支那國境地方

ナコンソワン州の一部

アヌチャ州内サラブリー一帯

ピサヌローク州の一部

二、鐵刀木類、ラーヂヤブリー州内チュンボン地方

ナコーンシタムマラーチャ州

三、黃楊柴、シヤム灣沿岸の山岳と島嶼、東北高原地方の入

口。

# ○對英貿易品概説

過去六年間日英貿易の大勢を通觀すると、本邦品の英國輸入は漸増したが、反對に英國品の本邦

輸出は漸減した、特に一九三一年に於て英國貿易の著しき減縮と共に此事實は一層顯著となり明瞭となるに至つた、之を比率に示すと

	輸入	輸出	再輸出	合計
一九二六年	三四	六五	一	一〇〇
一九二七年	三五	六四	一	一〇〇
一九二八年	三七	六二	一	一〇〇
一九二九年	四〇	五九	一	一〇〇
一九三〇年	四八	五一	一	一〇〇
一九三一年	五二	四七	一	一〇〇

即一九二六年日本よりの輸入七、二〇四、一一七磅で輸入總額の〇・五八%であつたものが一九三一年には六、九五二、五三三磅で、英國輸入總額の〇・八一%にあたり、一九二六年度日本への輸出が一三、九〇四、四九五磅であつた英國品が一九三一年に六、一八六、九〇五磅で非常に減じてきた、何故に本邦品の輸入が優良な成績を揚げたかといふに、主要輸入品が増加したこと、新商品の勃興した結果である。

英國へ輸入さる本邦商品で、年額十萬磅以上のものは約二十二種に達する、今一一其名をあげて説明すると第一は生絲の七十四萬二千磅である。本品は一九二六年以來堅實なる歩調で増進しつゝあるので、絹製品に對する保護關稅設定後英國で絹業が大に發達した結果である、第二は大豆及大豆油であるこの二つは一方が増加すれば一方が減ずるものであるが

大豆油が中軸で大豆が補助である大豆の方は或は一九二九年の如く九萬四千噸も輸入されたが一九三一年には一萬七千噸に過ぎなかつた、家畜の飼料に供されるのである。

第三は銅及其製品であるが一九二八年頃は一噸にも達しなかつたが、一九三一年には一萬五千噸、本邦品の第二位六十八萬ポンドに上つた、しかしこれは爲替の關係で米國品が割高になつた結果で一時的のことかもしれない。

第四は絹物であるが初は輸入第一位であつたが一九三一年には生絲に讓つて五十萬ポンド第三位に落ちた、精練品、羽二重及織物類である、これはまだまだ見込の多い品物である第五位は蠶繭詰其他で四十五萬六千磅に達する、露領カムチヤツカ陸上及工船で作つて、大部分は英國へ直輸される外に露國側からの鮭や蟹の繭詰をも合せて計算すれば六十五萬ポンド以上に上るのである、第六位は乾豌豆であるが北海道の特産であつてオランダ品に對抗が出来ないけれども、三十萬ポンドを輸入する、つぎに茶も農産物の一として主要なる輸入品である、ウーロン茶を主として臺灣紅茶及綠茶も少しは輸入する。

菜種油も亦注目すべき對英輸入品であつて、二十萬ポンドに達したことがある、つぎに櫛材(挽材)も主要品で年々高低があるが一九三〇年には三十萬ポンドから上つたが一九三一年には十六萬ポンドに下つた、高級家具材料に供される、つぎに綿製品でメリヤスシャツ二五萬ポンドがある、近頃フ

アンシイ綿製品が著しく増進した、第八位は新進のゴム、製品であつて二十三萬ポンドに達した、ゴム板、ゴム品、ゴム糸、ゴム管、ゴム長靴、短靴、靴底、玩具等種類が多い、この中ゴム靴の進出は目醒しく一九三〇年に八千打にすぎなかつたのに一年後二十三萬五千打、一躍三十倍に達した、偽替の關係で法外に安價になつたからで、ダムピングだと誤解されたものである、これはあまり安く賣らないがよい、品質は外國品におとらないのである、第九位は玩具であるがセルロイド製やソフトトイ、金屬機械仕掛の玩具で二十萬磅に上る、劍類も古くからの輸入であり陶磁器も近頃は漸増してきた、此等主要商品は輸入合計五四八萬六千磅に達してゐる。その他堅實な商品としては寒天、薄荷、樟腦の三つがあり百合根がある、いづれも本邦の特産である、金額は小さいが、電球萬年筆及び醬油の三つは將來の見込が多いとのことである。

### ○レーク・チャールズ港 Lake Charles

ルキジア

ナ州西南部テキサス州に近い所、メキシコ灣の沿岸にカルカシイといふ沼湖がある、その湖水に入るカルカシイ河口にあるチャールズ港は一九二六年十月以來開港地となつたが今日では異常な發達を上げてメキシコ灣岸注目すべき港になつた、現下歐洲を始め南米、西インド諸島及東洋方面の航路を開設して世界の主要開港場と交通を結ぶに至つた。

一九三一年本港に入つた船は二百二十隻で、前年よりも二十隻増加した、この港はカンサスシティー、サザンミズーリ

ー、パシフィック及サバーン・パシフィックの三鐵道との聯絡がある外、州際運河交通の衝にたち貨物の集散が多い、即棉花、米穀、木材、製紙、硝酸加里、肥料、煉瓦、小麥粉、瓦肉類、牛豚羊、鹽、鑛水等が出入する、その内棉と米が主要で米の輸出は米國第一位である。一九三一年以後著名な貿易會社が棉花倉庫をたて、棉花壓搾所をつくつた、これはルキジアナ、南部アーカンソー、東部テキサス方面よりの運賃が安價であるからで鐵道よりもトラックの運搬賃がやすい結果である、トラック道路の良好なのが設けられたからである。

かくて増築工事の必要にせまられ七十萬ドルの市債で築港ができ長一千六百呎幅二百フィートの鐵筋コンクリートの棧橋が出来たこれに複線の鐵道がついてゐる、又縱七百フィート横百六十呎のシェッドの附設があり港内の繫留地積は三千二百フィートで一時に八隻乃至十隻の船がかゝるとの事で、全く近代の便宜の良港が出現したのである。

### ○綿布道路

綿布道路といふ語は奇矯であるが、綿布のみで道路をつくるのではない、北米ルイジアナ州、バートン・ルイヂ附近では公道二哩半は既に所謂綿布道路となつた、それは砂利及粘土にて路床工事をなし路を平坦にした後アスファルトを布き、之にローラーをかけ、更にアスファルトを布き其上に綿布をさせる、この綿布は荒目の粗布で一平方ヤードの日方四オンス半位である、而してその布の上に三度目のアスファルトをしき、道路上層材料を施しローラーをかけ、暫

くして後仕上げのアスファルト油と砂とを掛けて更にローラーをかけるのである。

かやうにすると綿布は路床全面を蔽ひて防水の役に立ち、他の材料を附着せしめ、且堅牢ならしめる役をつとめる、道路破損の最大原因は、水の道路面に透入するのによるから、綿布をかやうに用ひることによつて全く之を防止し得られる六年前サウスカロライナ州で綿布を道路に用ひたところ、交通の頻繁な割合に今尙修理を要しない頗るもちがよいことを實證された。

綿布を道路に用ひたことは勿論新しいことではなく二十五年前ほど前に、ニューイングランド地方のケーブゴットで砂上に之をしき其上に礫及其他の道路材料をしき地面のメリコミを防いで自動車道を建設したのが最初である、英國でも昨年この種の實驗的道路が出来たといふ、日本でも大阪や京都などのいたみやすい自動車道を、この方法で改築したならばどうかと考へられる。

### ○ブラジル國に於ける絹工業

パウロ州、ミナス州、リオグランデノルテ州等各州政府は養蠶研究所蠶卵研究所を設け、蠶卵紙や桑苗の無料配付、獎勵金附與等にて絹工業は着々進歩し一九三一年にはサンパウロ州にて三十五萬キログラムの收繭ありたり、國內に就て亞熱帶の地は殆ど全部桑樹栽培に適し、然もこれらの桑は年中不斷の綠葉に、包まるゝが故に、溫帶地方の養蠶の如く一年一

回に止らず、四回、六回、時としては八回の養蠶を可能ならしむ、あらゆる技術的研究の結果ブラジルの風土に適する蠶の一タイプ「伯國黃金」なる新種を得て均一的生産をなし其絹製品も亦優良なるものを産出することゝなつた。

サンパウロ州に於ての生産中心地はカンピナス市であつて各種の研究機關を供へリオクラーロ、コルディオロ其他の地方へ桑苗無代配付をなしつゝあり、一九二九年には州内に四十一ヶ所の絹絲工場が出来近き將來には絹の國內需要のみでなく海外へ輸出の見込が立つてきた、目下生産品は絹織物、靴下、リボン、絹絲、ジャージー等である、さうして州内で養蠶に従事するもの五千人に達し絹工場に働くもの五千七百人に達した、カンピナス市に於ける最大の工場は二萬五千金の資本を有し、その紡績部にては、五百人の職工に對し、紡錘七千を供へてゐるといふことである。

### ○黑龍江の水運

黑龍江の水運はハバロフスク附近では毎年五月五日前後に解氷し十一月廿七日前後に結氷する、故に五月下旬から十一月中旬までは水運の便が開かれる、冬季汽船の大部分はハバロフスク及ブラゴヴェチエンスクに集結される。

現在交通しつゝある汽船は一、大型客船(二階造、兩側水車式定員三百五十人、貨物無き時は七百五十人乃至八百人)、一、ブラゴヴェチエンスク―ハバロフスク―ニコラエフスク間連絡船

ウオルガ、プロヒンテルン、ジェルジンスキー、カーメネフ、チエーリン、コミンテルン、イリーチ、カリニン、カールヤルクス、ロゾー、カルベンコの十艘である。

二、小型客船(二階造後尾推進式前者の約三分の二の大きさ)イマンーハマロフスク間連絡船、ルイバク、スワボート、コルホーズ、クラスノフロートツ、クラスノアルメエーツの五艘

三、曳船用汽船(自體甲板に薪をつみ、大バルヂヤ(百噸乃至二百噸數隻を引く)ローザルクセンブルク、モスクワラボーチエ外三十三隻

以上の外目下新に石炭運搬船十八隻(二百馬力)を建造中である。

### ○内地朝鮮間の電話開始

下關釜山間を海底線でつなぐ内鮮連絡電話は有線電話としては世界に類例の少い劃期的大事業なので通信省は特に慎重に調査研究をつけ、數十回にわたつて試験通話を行つたが頗る良好の成績を得て、いよいよ一般公衆通話開始に決定した。

通話區域は第一期では京城・大阪間とし、一通話料は下關・釜山間および門司・釜山間各一回、福岡・釜山間一回二十錢、廣島・釜山間一回五十錢、大阪・釜山間二回、大阪・京城間二回七十錢となつてゐる。

明春三月海底線の三回線増設によつて、通話區域は京城東京間に延長されるであらう。(朝鮮)

○東京地質學會、日本岩石礦物礦床學會、地球學團、日本地理學會及日本火山學會に於ける見學旅行は次の如き豫定である。

一、日立鑛山附近並に常磐第三紀層見學(四月二十四日、二十五日)人員三十名

二、足尾銅山並に葛生(栃木町の西方)見學(四月二十四日)人員二十名

三、神繩斷層見學(御坂層及び足柄層)(四月二十四日)人員十五名

四、箱根及び熱海地方見學(多賀火山、陽河原火山、箱根火山)(四月二十四日)人員三十名

尙四月二十三日(日曜日)午后四時より歌舞伎座に就て觀劇會を相催すに付き(會費八圓)地球學團員にして此の舉に加はるものは三月十日迄に其氏名を直接東京地質學會(東京帝國大學理學部地質學教室)宛に送附せられたし。